

正しく知り、正しく恐れ／畏れる。

定光寺 乙川文英  
令和三年六月二十四日 加茂法話会

六曜

先勝（せんしょう）・友引（ともびき）・先負（せんぷ）・仏滅（ぶつめつ）・大安（たいあん）・赤口（しゃくく）の六個の星。陰暦における各月の一日目が、一・七月は先勝、二・八月は友引、三・九月は先負、四・一〇月は赤口に当たるとし、あとは上記の順に従って六日ごとに一巡する。それによって諸行事の吉凶をいう。中国の小六壬法（しょうりくじんほう）が、日本で変化して六曜となったといわれる。江戸中期から暦注に記されて流行し始め、現在に至っている。六輝。（『精選版日本国語大辞典』）

旧暦日					6・12	5・11	4・10	3・9	2・8	1・7	旧暦月
25	19	13	7	1	赤口	大安	仏滅	先負	友引	先勝	六曜
26	20	14	8	2	先勝	赤口	大安	仏滅	先負	友引	
27	21	15	9	3	友引	先勝	赤口	大安	仏滅	先負	
28	22	16	10	4	先負	友引	先勝	赤口	大安	仏滅	
29	23	17	11	5	仏滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	
30	24	18	12	6	大安	仏滅	先負	友引	先勝	赤口	

（『スーパード辞林』）

友引

一、陰陽家の説で、凶禍が友に及ぶとする方角。たとえば、子の日は卯（東）方、丑の日は辰（東南東）方というように、日によって異なり、特にその方角に向かったの葬儀は忌まれた。友引方。

二、民間暦でいう六曜の一つ。本来は相打ち、引分けで勝負なし、良くも悪くもない日の意。幕末頃、方位の友引と混同し、他人の死を誘うといわれてこの日に葬礼を避ける習慣がうまれた。友引日。（『精選版日本国語大辞典』）